

公開保育を終えて

御 礼

平成 25 年度堺支部の公開保育指定園として、ご案内をさせて頂きましたところ、堺市の幼稚園のみならず、大阪市、門真市、富田林市、和泉市、更に、近隣 2 つの小学校の校長先生を含めまして合計 63 名もの沢山の先生方がお忙しい中にも拘わりませずお越し下さり、心より感謝を申し上げます。

子宝幼稚園は、昭和 48 年の創立以来、今年で 41 年目を迎えます。微力ではございますが、子どもの事を一番に考えてくれる幼児教育に熱い先生達と共に、日々取り組んでまいりました。今回、その一つの集大成として他園の先生方にご覧を頂きまして、自園の良さの再発見と共に、気付かなかった貴重なご指摘を頂き、今後の本園の充実、発展に取り組む所存です。

さて、子ども子育て新システムが平成 27 年 4 月より実施される中で、私立幼稚園は、認定子ども園の道を進むのか、今の幼稚園として残るのかの大きな岐路に立っています。そして、どちらの方向を選択するにしろ、地域に必要とされる本物の施設が存続する事でしょう。又、少子高齢化と云われて久しい時代の中で、子どもと共に幼稚園教諭の争奪戦が繰り広げられ、更に、私学助成金や耐震化、教員免許の方向性も行く末が気になるのが現状です。その様な、時代が大きく変わろうとする今、公開保育の指定園となり、客観的な第三者評価の機会を頂けた事は誠に幸甚です。

教育の仕事は厳しい世界です。しかし、極めて大切であり、子どもと共に歩む楽しさは格別なものがあります。初めての集団生活で子どもに大きな影響を与えるのは先生であり、その先生達を優しく厳しく、教え育み、幼児教育のプロになってもらう事が大切です。(先生宝) 近年の学生の傾向として、精神的にやや弱くなっている様に感じます。それだけに、一年目から一人担任は避け、個人差がありますが、二年、三年、四年と長い目で見ていき、少しでも自信を持って、子どもの前に立って欲しいものです。そこに、当然の事ながら、それに見合う給与が必要であり、労働時間や休憩時間も少しルーズな部分がこの業界にもありますが、しっかりと守る事が大切です。更に、私立幼稚園においては、個性を出す為に様々な行事が盛り込まれています。準備等の仕事が多いにも拘わらず、先生に“早く帰りなさい”のみでは職場環境の改善は実現しません。本園でも敢えて、日曜参観、敬老参観を廃止、運動会やお店屋さんごっこ、そして、発表会も楽しい中に負担を少なく考えましたが、まだまだです。子どもの成長を一番に考えながら、カリキュラム、行事の見直しは絶対に必要だと思います。

各幼稚園がより高いレベルで切磋琢磨して、活性化する事が何より子ども達の幸せに繋がる事を信じ、御礼の言葉とさせていただきます。

子宝幼稚園

園長 中井 文哉